

# 美しい心と生きる力を育める 日舞の素晴らしさを伝えたい。



## 日本舞踊藤間流の師範

### ふじ ま ゆう し ろう 藤間 裕志朗さん

**Profile**/本名:山口博子さん。北九州市で生まれ育つ。29歳のとき日本舞踊藤間流に入門。45歳で藤間裕志朗の名を許され、49歳で師範となり「裕志朗の会」を設立。「わっしょい百万夏まつり」の部会員を務める傍ら、百万踊り・創作部門で2度のグランプリほか、受賞歴多数。2013年から踊られる新曲の振り付け、市民への講習会をこなす一方、海外でも踊りを披露。北九州市小倉と福岡市平尾、山口県下関、東京都新橋に稽古場を持つ。

#### 『日本舞踊藤間流「裕志朗の会」』

北九州市小倉北区高尾1-37-8 TEL 093-591-8959 <http://www.fujima-yushiro.net/> ※福岡平尾教室あり



1.「わっしょい百万夏まつり」に踊り手として参加したときのコマ。魂を込めた躍動感あふれる踊りで、多くの観客を魅了した。1993年からは発表会「裕志朗の会」も開催。2.モダンバレエや長唄、太鼓にも精通しており、『東京歌舞伎座』や『大阪国立文楽劇場』に出演した経験もある。

彼女の登場で、稽古場は一瞬のうちに華やきをまとった。400余年にわたり、脈々と受け継がれてきた日本舞踊、その師範・藤間裕志朗さん。真紅の着物を粋に着こなし、雅な立ち姿に惚れ惚れする。それでいて暗れやかに相手を包み込むような笑顔と声に、たちまち心がほぐれた。

父親の蓄音機から流れるクラシックや歌謡曲、母親が口ずさむ童謡や唱歌を聴いて育った裕志朗さん。「音楽に合わせて踊ってと言われることもあり、体で表現することが身近な環境でしたね」と幼き日々を振り返る。小学校から演劇、中学高校は器械体操に励み、大学で幼稚園教諭の資格を取得。幼児教育に携わる。一方で幼少期と青年期、結婚直後と3度も大病を患い、長期のベッド生活も経験した。

### 舞うことで、“生き方”を自然に学ぶ。

裕志朗さんの人生が大きく動き始めたのは、29歳のとき。それは日本舞踊との出会いだった。「お稽古してみませんか」と藤間流の先生からお誘いを受けて、見学に行きました。そこで自らの意志のもとに凛と立ち舞う姿に、深く感銘を受けて。私もやってみようと思ったの。わが子連れ

て教室に通い、49歳で藤間流師範免状を取得。「日舞に没頭したのですか？」と問いかけると、「いいえ。日舞はいつもマイウエイのそばにいて、私を支えてくれる存在。とてもいい関係なのよ」とにっこり微笑む。

4カ所ある稽古場には幅広い年代の男女が通い、子ども連れや夫婦、カップル、上司と部下もいる。「日舞を通して、美しい心と生きる力を育める」というのが裕志朗さんの持論だ。「日舞はひとりでも演じ、過去・現在・未来と時空までも超えるの。森羅万象すべてに意志が宿り、その心の機微を全身で表現します。様々な役に想いを馳せることで人に優しくなり、自分の感情をコントロールできるようになる。そして自らの意思を伝える表現力も身につくことで、日常生活を生きやすくするんです」。踊りに型はあるが、その人ならではの感性や表現を尊重したい。振りから時代背景や心情まで教え伝えたら、あとは生徒が感じるままに、「心で踊る。スタイルを貫く。

### 日本人として根を張り広い世界へ。

北九州の「わっしょい百万夏まつり」の振り付けを手がけ、地域に根差した活動を展開。また

「日本の素晴らしさを世界に発信したい」との思いで、韓国やイタリア、フランスなど海外で踊りを披露する機会も増えてきた。「やってみようことは表に出して、言葉にしておくことが大事よね。海外に出て、改めて日本を愛おしく感じるようになりました」。バイタリテイに満ちあふれ、自身を拠点として軽やかに進む裕志朗さん。常に進化するコツは「過去を払い、今をゼロ起点にする。払ったものをまた拾うこともあるけど」と茶目つ気たつぷりに語る。すべてを知り尽くした上で、それを忘れることができるくらい無邪気！そんな人柄がまわりの人を魅了するのだろう。「生徒さんたちが明るくなり、人生を前向きに楽しむ姿を見るのがうれしい」と瞳を輝かせる。

自身の理想像を尋ねると、ノートを見せてくれた。そこに手描きで記されていたのは、空へと枝葉をのびた美しい大木の姿。「日本人としての根っこを学び、世界まで枝葉をのばし、花を咲かせ実をつけたい。日本の大地に戻る。そんなナーズログになりたい。肉体は減びても、誰かのために教え伝えたいことは永遠に生きていくから」。今を心から楽しむことで太陽のように光り輝く裕志朗さんは、未来まで明るく照らしている。